



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 4, 79-82
Issue Date	1978-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25513
Type	other
File Information	4_P79-82.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (昭和52年度)

文 学 部

独 語 学 概 論		川 島 淳 夫
独文学史概説		青 柳 謙 二
独 語 学 演 習	Schiller: Wilhelm Tell	塩 谷 饒
	Gedichte (前期)	H. Kempf
独 語 学 演 習	Lyrik (後期)	E. Kleeberg
独 文 学 演 習	Moderne Erzählungen	青 柳 謙 二
	Leseübung (前期)	渋谷 寿 一
独 文 学 I	Ricarda Huch (後期)	新 妻 篤
独 文 学 II	George Saiko	U. Walberer

大 学 院

(修士課程)

独語学特殊講義	ドイツ語史の諸問題	塩 谷 饒
	Grundbegriffe der Linguistik (前期)	H. Kempf
独語学特殊講義	Sprachübung (後期)	E. Kleeberg
独 語 学 演 習	現代ドイツ文法理論	川 島 淳 夫
独 文 学 演 習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	Büchner-Preis-Reden	U. Walberer

(博士後期課程)

独語学特殊演習	塩 谷 饒
独文学特殊演習	青 柳 謙 二

卒業論文題目

昭和51年度

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 小 野 裕 子 | ヘッベル悲劇における女性像をめぐって |
| 西 塚 聖 子 | Theodor Storm „Hans und Heing Kirch“ |
| 岩 田 聡 | E. T. A. ホフマンの「砂男」について |
| 長 尾 誠 | 「Rilkeの美術論について」 |
| 竹 原 一 弘 | ゲオルク・トラークル |

昭和52年度

- | | |
|---------|---------------------------|
| 有 蘭 美 隆 | ペーター・ヴァイス論—生への参加としての真理伝達— |
| 吉 本 牧 人 | ドイツ語訳「マルコの福音書」におけるドイツ語の用法 |
| 青 島 淑 子 | ヘルマン・ブロッホの「猷帯物語」について |
| 浅 野 素 子 | トーマス・マン「トニオ・クレーガー」について |
| 武 田 尚 樹 | ドイツ語の関係文に関する一考察 |

修士論文題目

昭和51年度

- | | |
|---------|--|
| 佐 藤 修 子 | Zu den deutschen Modalverben—Eine kontrastive Untersuchung der deutschen Modalverben im Vergleich mit den japanischen Entsprechungen |
| 山 田 貞 三 | 三月前期の文学 —青年ドイツ派とビューヒナー— |

昭和52年度

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 岩 井 洋 | 開かれし世界 —F・ヘルダリンの詩作の姿勢をめぐって— |
| 川 東 雅 樹 | ロベルト・ムージルの初期の小説 |
| 対 馬 晃 | ヴォルフ・ピーアマンの詩の世界 |

研 究 室 行 事 記 録

◎ 昭和52年4月9日に、第3回合評会が、独文学研究室で行なわれた。

◎ 昭和52年度は、次の4回の研究会がもたれた。

・4月23日（独文学研究室）川島淳夫：「言語記述における単位について」

・6月25日（独文学研究室）塩谷 鏡：「ゲルマン語について」

・7月13日（独文学研究室）対馬 晃：「日本の労働者演劇について」

・10月9日～10日（北海道アカデミー青少年センター：白老町）

9日 山田善久：「形容詞について」

武田尚樹：「関係代名詞について」

塩谷 鏡：「ドイツ語学30年」

10日 灰岡恵子：「時制について」

田中俊明：「複合語と派生語の造語構造」

川島淳夫：「総括」

◎ また、昭和52年度は、次の2回の講演会が、北大文学部で開かれた。

・5月16日 R. R. K. Hartmann(イギリスExeter大学教授)：「Textology」

・9月 3日 Gerhard Kaufmann(Goethe Institut)：
「Komponenten von Sprechsituationen」

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため年額5,000円（教官は10,000円）の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と3名の幹事をおく、幹事は会計1名、編集委員2名とする。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独文学研究室におく。

会 員 名 簿

文学部教官

博士課程

修士課程

卒業生

◎塩谷 饒
青柳 謙二
川島 淳夫
高橋 吉文
佐藤 俊一
石橋 道大

安岡 正義
神 久 聡
○田 中 俊 明
○山 田 貞 三

石 川 克 知
山 田 善 久
岩 井 洋
川 東 雅 樹
対 馬 晃
灰 渕 恵 子
岩 田 聡
梅 津 真

伊 藤 祐紀子
植 木 迪 子
加 藤 寛 蔵
佐 藤 修 子
瀬 川 修 二
三 浦 国 泰

◎は会長 ○は幹事

独語独文学科研究年報 第4号

昭和53年2月発行

発 行 者 北海道大学文学部独語独文学講座

編 集 委 員 田中 俊明 山田 貞三

連 絡 先 北海道大学文学部独文学研究室内
〒060 札幌市北区北10条西7丁目

印 刷 所 北海道大学生協プリント部